

新しい耳で聞く

マルコによる福音書四章10〜20節

「彼らは見るには見るが、認めず／聞くには聞くが、悟らず
／立ち帰って赦されることがない」ためである。(12)

主イエスは四つの種のたとえを解説される中で、神の言葉を聞き損なっている人々の問題点をイザヤ書の言葉を引用しながら指摘します。神の言葉を神の言葉として聞かないのです。間違つて聞いてしまうのです。神の言葉が語られると、かえつてその心の頑なさがはつきりするだけなのです。そのとき最も大きな問題は、間違つて聞いていながら、自分が間違つて聞いたことに気づかないことです。耳を開いて聞いているつもりが、自分の耳に合う言葉しか聞こうとしないのです。自分の耳を、神の言葉の波長に合わせようとしません。私たちが神の言葉を聞くとき、神の言葉を自分の耳に合わせようとするのではなく、自分の耳のダイヤルを切り替えて、神の言葉に合わせることが必要となります。そのような新しい耳で聞くとき、キリストの言葉が救いの言葉として心に響いてくるのです。